平成29年6月1日

加西市議会議長　三宅　利弘　様

調査研究実施報告書

会 派 名　自民の風・誠真会
代表者名　丸岡　弘満

下記の通り、行政視察を実施したので、報告します。

記

1．調査年月日
平成29年5月17日（水）～5月18日（木）

2．調　査　先
島根県邑智郡邑南町、広島県呉市

3．参加者氏名
黒田秀一、植田通孝、丸岡弘満、松尾幸宏
※市民連合と合同で視察

4．研究目的及び内容
①島根県邑智郡邑南町（5月17日（水）13：15～14：45）
「日本一の子育て村構想」について（詳細は別紙）
定住促進課 まち・ひと・しごと創生戦略推進室 田村室長
邑南町議会事務局・監査委員事務局　大賀事務局長

②広島県呉市（5月18日（木）9：00～13：00）
「日本遺産認定に向けての取り組み・近代化遺産の保存と活用」について、「シティプロモーション」について、日本遺産関連施設「入船山記念館」（現地視察）（詳細は別紙）
企画部企画課 久保課長
企画部企画課（地方創生G）　多田課長補佐
呉市議会事務局 野見山次長

文化スポーツ部 文化振興課 社会教育グループ 倉員主幹
文化スポーツ部 文化振興課 林主査
入船山記念館運営グループ 湯浅事務局長

5．添付書類
（1）視察行程表
（2）研修資料
（3）写真

以上

島根県邑智郡邑南町

[視察項目]

日本一の子育て村構想について

[目　的]

加西市の目指す人口増・子育て福祉施策の対比や先進的施策の調査研究

[注　目]

平成24年の合計特殊出生率は、**2.65**（平成20年からの5年間で平均2.15）

[特　徴]

邑南町は、島根県のほぼ中央部にあり、人口約11,000人で総面積の8割を森林が占め、高齢化率も40%を超える田舎町ですが、車で1時間あれば浜田市、江津市、大田市、広島県三次市、北広島町の中心地まで行け、広島市内でも1時間15分の距離に位置しています。また、豊かな自然条件に恵まれ、東に江の川が流れ、県立自然公園に指定されている断魚渓、千丈渓などの景勝地があります。自然環境のよさを象徴する国の特別天然記念物オオサンショウウオ（ハンザケ）は、町のイメージキャラクターになり、源氏ボタルも多く生息しています。「田舎」が有す豊かな自然資源や育まれた恵み豊かな食文化、固有な伝統文化を大切にし、町全体が一体となるよう「和」のまちづくりを目指しています。

平成16年10月1日に「石見地域」・「瑞穂地域」・「羽須美地域」が町村合併をし、邑南町のイメージソング「さくらほろほろ」を作られたさだまさしさんを通じて『邑南町の誇り』を全国にアピールしています！

1.「日本一の子育て村構想」についての経緯

・2010年の国勢調査において、邑南町の人口が直近の5年間で1000人弱も減っており、これ以上、人口が減ると邑南町が消滅してしまうという危機感を町長や職員全員が持った。

・人口の増減には、「自然増減」と「社会増減」の2つの要因がある。当時の邑南町の人口減の内訳を見ると、転出による「社会減」も多いことがわかった。

・UIターン者を増やすことで「社会増」は実現できる。そのため、若い方に移住してもらうための定住促進策に力を注ぐことにした。

2.「日本一の子育て村構想」に向けていち早く提言・実施した施策

1. 二人目の子供から保育料を無料

2. 保育園に看護師を常駐させていて子供が体調を崩しても親は安心。
3. 保育所の完全給食制度
4. 小児科医が２４時間対応を町が支援している⇒子育ての母親の安心感が大きい
5. 中学生までは医療費無料

※策定にあたっては、医療や保健、福祉、就労、教育、生活環境など、関連する部署をすべて集めて本部をつくり、どんどんアイデアを出させました。

※その後、日本一の子育て村にむけた数多くの施策を実現しています。

３．実施について

①攻めと守りの定住プロジェクト

・“攻め”のＡ級グルメ構想

・“守り”の日本一の子育て村を目指して+徹底した移住ケア

②平成22年度過疎地域自立促進計画策定

・「過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律」に基づき平成22年から平成27年度までの６年間を計画期間

・特別枠分１億８千２百万円の充当

（過疎債をソフト事業に充当できるように陳情）

４．成果

①住民の変化

・雇用環境の充実

・町民の誇りの醸成

・合計特殊出生率がアップ

②町内の変化

・地域おこし協力隊員が邑南町で仕事をして定住

・若い者世代の人口増

・経済的な負担軽減の制度は充分→子育て村構想が掲げる理念「地域で子育て」を実施して、日本一の子育て村を住民が実感できる町に変化しつつある。

５．加西市との違い

①出生率が高い理由は、保・小・中学校の数が多いことである！

・廃校は、集落を消滅させるという考え方

・各地域に子育て支援の拠点を残す取り組み

※保育所９、小学校８、中学校３、普通高校１、養護学校１、公民館 12

②教育に対する目に見える具体的施策の充実

・学校図書の充実（全小中学校へ司書配置）

・学習支援員等の配置

・矢上高校への支援（保護者経済負担軽減・補習事業の実施・職員派遣）

③生活環境の相談・支援整備

・ケーブルテレビ開局、IP 電話

・UI ターン者専用住宅建設、新築・改築・空き家改修補助、邑南町版 PFI

・定住支援コーディネーターと定住促進支援員の配置

④女性や子どもを大事にする女性目線のまちづくり

・不在だった常勤の産婦人科医を招き、妊婦健診を 16 回まで無料など

・保育所完全給食（負担軽減＋地産地消）

・延長保育（働く世代のケア）

・病児保育（病中・回復期のケア）

・子育て支援ポイント付与制度

６．今後の展開

１．町内に女性の起業支援センターを設立（人材確保）

２．民間企業との協働による “さらなる” 邑南町ブランド力ＵＰ

３．一流の人材育成 ☆地域をみつめ世界へ羽ばたく教育力（小・中・高）UP ☆地域課題解決型、他流試合

４．新たな就業スタイルの創造

広島県呉市

[視察項目]

日本遺産認定に向けての取り組み・近代化遺産の保存と活用について

シティプロモーションについて

[目　的]

戦争遺跡群などの保存と活用方法、広報施策に関する調査研究のため

１．日本遺産について

・平成２６年に文化庁が創設し、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・歴史を語る物語（ストーリー）を「日本遺産」として認定する。

・ストーリーを語る上で、不可欠な魅力ある有形・無形のさまざまな文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。

目的とメリット

・保存重視から、地域に点在する様々な遺産を面的に整備活用し、国内外へ発信

・都市ブランド力や認知度の向上、住民のアイデンティティ創出、文化庁補助事業の活用

・観光誘客や交流人口の増加、地域活性化など

認定状況

平成２７年度（第１回）…１８件、２８年度…１９件、２９年度…１７件

※「地域型申請」と「シリアル型申請（複数の市町村にまたがる）」があり、国は２０２０年までに１００件程度認定する予定。

２．日本遺産認定までの経緯

平成２７年２月　近代化遺産を活用した４市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）での取り組みの推進

７月　日本遺産申請について４市長合意（協議の本格化）

８月　第１回日本遺産申請検討会議（東京）

検討会議６回、文化庁協議５回をおこない、認定基準を追求しながら「タイトルストーリー」を作成・修正。日本遺産を活用した地域活性化計画や体制を整備。

平成２８年２月　日本遺産へ申請

「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～」

ストーリーの骨子

①明治期の日本は、近代国家として海防力を備える必要があったため、国家プロジェクトにより天然の良港４カ所に鎮守府を置き、軍港を築いた。

②静かな農漁村に人と先端技術が集まり、独自の都市形成の歩みの中で軍港都市が誕生し、日本の近代技術が育まれた。

③日本の近代化を推し進めた４市には、海軍由来の食文化もまちに浸透し、多種多様な数多くの近代化遺産を育むとともに、躍動した往時の姿を体感できる。

ストーリーを構成する主な文化財

旧呉鎮守府司令長官官舎（現・入船山記念館）、海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）、アレイからすこじま、歴史の見える丘、大和ミュージアムの所蔵資料、旧海軍墓地など１８件

４月　日本遺産認定

３．日本遺産認定後の取り組みについて

１年目は情報発信・普及啓発が中心であり、２年目以降は観光誘客の促進に向けた取り組みが中心。

日本遺産魅力発信推進事業（平成２８年度・文化庁補助による４市連携事業）

①情報発信・人材育成事業　　４市共通ストーリーブック・ガイドブック作成
雑誌等のメディアを活用した情報発信

②普及啓発事業　　「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴フェス in 東京」の開催
「日本遺産 WEEK」の開催（非公開施設の公開）
日本遺産ＰＲ素材（のぼり等）の作成

③公開活用にかかる環境整備事業　　４市共通案内板（サイン）の設置

呉市の独自事業（平成２８年度）　※文化庁補助を除く

・日本遺産認定記念セレモニーの実施、特別講演会の開催
・市民への周知（広報誌・テレビ、横断幕、ＰＲボード等）
・呉市版日本遺産ストーリーブック・ガイドマップの作成
・ボールペン、クリアファイル、ピンバッジ等ノベルティ作成
・ループバスのラッピング、呉～宮島航路就航
・日本遺産周辺施設の回遊性向上の検討　など

４．今後の日本遺産を活用したまちづくりの方向性

①市民の魅力の再認識・共有・発信、アイデンティティの向上
②行政・民間・市民による「観光まちづくり」の推進、観光誘客
③次世代（子供達）への継承

１．シティプロモーションの目的

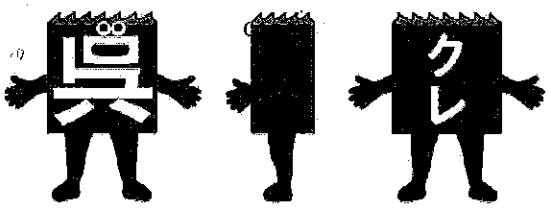
①観光誘客や移住・定住促進が図れるよう、市の「魅力」や「らしさ」を戦略的・効果的に情報発信。
②ブランド力強化や都市イメージ向上により、「訪れてみたい」「住んでみたい」と感じてもらう。

呉市と言えば「大和ミュージアム」であるが、観光客はその他の場所に寄ることなく帰ってしまうという課題があった。市内周遊や宿泊してもらうために、これまでの市中心部の魅力（大和ミュージアム、海上自衛隊、造船）と平成の大合併で加わった地域の「瀬戸内らしさ（江戸の町並み、多島美、魚介類・柑橘類）」を新たな魅力として伝えるために、ＰＲ動画とイメージキャラクターの製作にとりかかった。

２．キャラクターとプロモーションビデオ

他の多くの自治体がゆるキャラやプロモーション動画を製作しているため、二番煎じという認識があった。そのため、首都圏在住の３０代～５０代をターゲットに、インパクトのある動画と愛されるキャラクターをつくり、ＳＮＳで拡散・話題化されることで、呉市民が新たな魅力を再発見する戦略を立てた。

テーマソングにはTRFの「Crazy Gonna Crazy」の替え歌「呉―市―（くれーしー） GONNA 呉―市―（くれーしー）」を作り、ミュージックビデオのようなプロモーションビデオを撮影。キャラクターには、一目で「呉」とわかるように顔に市名を入れた。



３．発表後の取り組み

・２月１日発表し、わずか６日間でYouTubeの再生回数が１５万回達成
　このことで民放キー局やローカル局による取材依頼、動画の放送があった。
　発表から２カ月で約３億円の宣伝広告効果と試算。
・市民向けには市民祭りでお披露目し、さらにキャラクターのJr.をデビュー
・ノベルティの販売や民間企業によるグッズ製作・販売の展開
・公式Twitterの開設（イベント告知、１０～２０代の支持、新たな交流）

４．今後のプロモーション活動

１年目　話題化と認知拡大（キャラクター誕生、テーマソング）
２年目　理解促進と来訪促進（市民によるキャラクター拡散）
３年目　呉市ブランド確立（市民中心の新しい呉ブランド）

【所感】

自民の風　植田　通孝

１．「邑南町における定住対策・日本一の子育て村を目指して」について

邑南町は、島根県中央部の山間にある自然豊かなスイスのような風景の町。人口 11,101 人（H27 国調）、高齢化率 42.6%、出生数 70 人(H27 年)。国調による 5 年間の人口減少率 7.18%、△858 人（加西市△7.67%、3,680 人）、合計特殊出生率 2.46(h27 年)。

※ 合計特殊出生率のマジックで、分母に来る女性(15 歳～49 歳)の人口が 1,000 人程度であれば、70 人の出生数でも可能な数値。

※ 社会動態が 3 年連続で増加（H25 年 20 人、H26 年 6 人、H27 年 28 人）

※ 自然動態　H25 年△158 人、H26 年△181 人、H27 年△157 人

※ 子育て支援施策　　産科・小児科の充実、子供医療費の無料化（中学校卒業まで)、保育料第 2 子目以降完全無料化、第 1 子も国基準の 6 割、保育所完全給食(無料)、町内 2 か所の病児保育室等を実施。

※ 定住対策　　高速インターネット環境整備、IP 電話による町内電話通話料無料、新しい住宅の新築・改築費支援制度（3 世代同居⇒工事費の 10%上限 100 万円、3 世代近居【近居は同一集落内】⇒工事費の 10%上限 80 万円、2 世代同居・近居⇒工事費の 10%上限 50 万円、空き家改修補助事業、UI ターン者専用住宅の建設（公設、民設)、定住相談体制の強化(2 名)、

※ 徹底した移住者ケア　　定住者数（H25 年 56 人【うち児童数 10 人】、H26 年 63 人【うち児童数 16 人】、H27 年 49 人【うち児童数 19 人】

※ 定住者の声　　「元は茅葺の家を大家さんが改修、４LDK で家賃が月 2 万 5 千円。」　「好きなように畑を使っていいよ。最近野菜もコメも買ってないなー」「周囲の方の支えがうれしいです。」⇐ここがポイント！！

※ 生まれた子供の名前を、田の畦畔に草を刈り込んで祝っている。周囲の人たちの優しさがにじみ出ている。⇐ここもポイント！！

※　がんばれ邑南！！

2．「日本遺産を活用したまちづくり
日本近代化の躍動を体感できるまち呉」について
～いいまちには物語がある～

・日本遺産とは、平成26年度に創設された文化庁所管事業
・地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・歴史を語る物語（ストーリー）を「日本遺産（Japan　Heritage)」として認定
・ストーリーを語る上で不可欠な有形・無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。
・【制度創設の背景】　文化財はシティプロモーションのコンテンツとして潜在的な可能性が高く、地域の文化財をより効果的に保存・活用するためには、文化財を総合的に把握し、一定のテーマやストーリーの中でとらえることが有効。
・歴史に耳を傾けると、その土地に物語が生まれる。文化財は保護から活用の時代へ、「日本遺産」の始まり。

【日本遺産認定のメリット】
・都市ブランド力の向上、認知度の向上
・住民のアイデンティティの向上
・文化庁補助事業（3年間）の活用（日本遺産魅力発信推進事業）
・観光誘客・交流人口の増加
・地域振興・地域活性化

【日本遺産認定実績】
・第1回（H27年度）18件（申請83件）※尾道市・津和野町ほか
・第2回（H28年度）19件（申請67件）※呉市・横須賀市・佐世保市・舞鶴市他
・第3回（H29年度）17件（申請79件）※2020年までに100件程度認定予定

【日本遺産認定区分】
「地域型申請」と「シリアル型（ネットワーク型）申請」

●呉市の日本遺産認定ストーリー
・申請者：横須賀市、呉市、佐世保市、舞鶴市
・タイトル：「鎮守府　横須賀・呉市・佐世保・舞鶴　～日本近代化の躍動を体感できるまち～」

○ストーリーの骨子
・明治期の日本は、近代国家として海防力を備える必要があったため、国家プロジェクトにより天然の良港4か所に鎮守府を置き、軍港を築いた。
・静かな農漁村に人と先端技術が集まり、独自の都市形成の歩みの中で軍港都市がが誕生し、日本の近代技術が育まれた。

・日本の近代化を推し進めた 4 市には、海軍由来の食文化もまちに浸透し、多種多様な数多くの近代化遺産とともに、躍動した往時の姿を体感できる。

※加西市も宇佐市や知覧町ほかとシリアル型（ネットワーク型）日本遺産認定申請を行ってはどうか？？

【所感　黒田秀一】

■島根県邑南町　　日本一の子育て村構想について

周りを美しい自然豊かな山林に囲まれて、邑南町の人々はそこから生まれる人のつながりと家族の温もりで暮らしています。とりわけ子供に対しての取り組みが素晴らしく、さだまさしさんを通じて全国に邑南町をアピールしています。年間100件以上の行政視察があるそうで、取り組みを紹介します。

初めに、医療体制が充実していることです。常勤医師が10人24時間365日救急受付をしています。民間病院や町立診療所等との連携を図っています。各種の費用助成を図っています。また、福祉も充実していて、保育料第２子目以降完全無料で第１子も国の基準の６割である。保育所給食が無料であり、放課後児童クラブもあり、病気になっても病児保育、延長保育、一時預かり保育、障害児保育なども充実しています。

地元の高等学校での支援策については、保護者の経済負担軽減、また補習授業に現役の東大生を講師に招いています。

私が１番感心したことは、ＵＩターン者に対する気配りがよくできていると思いました。新しい住宅の新築・改築に対する支援、また空き家の改修補助事業、所有者が空き家を改修して、わずか２万５千円で借りられるというメリット、そして、公営住宅は４万４千円で良好な賃貸住宅を提供していることです。その取り組みに対してＵＩターン者のケアのための定住支援コーディネーターと定住促進支援員２名が相談窓口にて対応しています。

■広島県呉市

・日本遺産認定に向けての取り組み・近代化遺産の保存と活用について

・シティプロモーションについて

呉市はもともと海軍の町で戦艦大和を建造した町で知られています。平成28年に日本の近代化に寄与したことで多くの戦争遺産が日本遺産に認定されました。例えば、鎮守府、海上自衛隊地方総監第１庁舎、本庄水源堰堤水道施設、歴史の見える丘など18件であります。日本遺産とは平成26年に創設された文化庁所管事業であります。呉にも海軍の遺産、また加西市にも鶉野飛行場周辺には海軍航空隊の遺産がたくさん残っています。ストーリーを語る上で不可欠な魅力がある、有形、無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備し、活用して、国内外に発信することにより、地域の活性化を図ることができると思います。

呉市は横須賀市、佐世保市、舞鶴市と４市で日本遺産の申請をしました。明治の日本は海防力を備える必要があったため、国家プロジェクトにより天然の良港４カ所に鎮守府を置き軍港を築いた。そして人と先端技術が集まり、独自の都市形成の歩みの中で軍港都市が誕生し、日本の近代技術が育まれた。

加西市も大分県の宇佐市と提携しようとしています。鶉野飛行場周辺の戦争遺産が日本遺産になるよう頑張っていかないとと思います。

〔所感〕丸岡弘満

【島根県邑智郡邑南町】

・「日本一の子育て村構想」について

先ず、驚くのが「2.65」という数字です。これは、町村合併後に年々減り続ける人口に危機感を覚え、いち早く人口増対策を提言し実施をした邑南町における平成24年の合計特殊出生率です。平成20年からの5年間で合計特殊出生率平均2.15という数字も残し、更にUIターン者を増やすことで「社会増」は実現できるとして、若い方に移住してもらう定住促進策に力を注ぐことで世代人口増の確保に努めています。

邑南町は、島根県のほぼ中央部にあり、人口約11,000人で総面積の8割を森林が占め、「スイスのような風景」がある豊かな自然資源が溢れています。また、高齢化率も40%を超える数字を考えれば、若い世代にはとても不便に思える田舎町ですが、広島市内には車で1時間の距離に位置しており、仕事や買い物は近隣市で済ませることが出来るようです。

では、なぜこの邑南町に人が集まり人口が増えるのか。加西市と一体何が違うのか、ということです。先ず、明らかに違うのはトップの姿勢とまちづくりについての考え方です。町長は、町民・職員から意見を吸い上げるボトムアップ方式を貫き、「女性目線と子供ファースト」でのまちづくりを進めています。人口増の施策についても、加西市は邑南町とほぼ変わらないだけの施策を打ち出してはいますが、実施についての“攻め”と“守り”の姿勢が分かりやすく、受け入れるための態勢もハッキリと明確に整理しているところが大きく違います。

また、決定的な違いは各地域を大切にして、地域の活性化や地域力を活かすために、保幼小中学校をそれぞれの地域で存続させているところです。人口減少社会において、先ず多くの自治体は人口の少ない地域を切り捨て、子育て拠点や教育拠点である保幼小学校等を統廃合していますが、邑南町は全くの逆で地域に拠点を残すことで確実に人口を増やしています。

加西市においては「5万人都市再生」という無謀な数字を総合計画の中までにも織り込み計画実施していますが、本当に人口増や地域を活性化、地域創生を目指しているのであれば、現在進めている幼保の統廃合は今すぐにやめるべきであり、福祉施策にも連動している子育て世代の拠点を残して、人口の流入や人口増を目指すべきであると思いました。

最後に、繰り返しにはなりますが、邑南町のように小さな村であっても、目的をしっかりと定め施策の効果と実効性を分析し、行財政において今現在ある特定部分にだけ多く投資をしなければいけないという住民理解の必要性と一つの信念を持って人口増に取り組まないと加西市の人口はこれから先も増えないだろうと邑南町の視察を終えて確信をしました。

【広島県呉市】

・「日本遺産認定に向けての取り組み・近代化遺産の保存と活用」について

現在、加西市においては、旧姫路海軍鶉野飛行場跡を利用した周辺整備と残された戦争遺跡を保存活用し、平和祈念館・ミュージアム構想が進んでおります。ただ、これからの課題は、その残された戦争遺跡群などをごく普通に見せるだけでなく、今後どのように保存活用する方法が地域資源として歴史遺産としても一番良いのかを考え、先進地である呉市での広報施策に関する調査も含めて現地視察をしました。

呉市は、平成 26 年に文化庁が創設した、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・歴史を語る物語（ストーリー）としている「日本遺産」に平成28年度認定されています。そもそものきっかけは、庁内で地域型（単独自治体）での申請に向けて検討中の時に、現在も旧軍港4市協議会（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の繋がりをより生かした形のシリアル型（複数自治体）に変更して4市で申請をしたそうです。

これまでは、「呉＝大和」というイメージが大変強く、観光においても「大和」メイン（点）であったのが、地域に点在する様々な歴史遺産を面的（ストーリー）に整備活用し、国内外へ発信できるようになり、文化庁補助事業の活用や都市ブランド力や認知度の向上、学校教育・住民のアイデンティティ創出につながるように考え、観光誘客や交流人口の増加、地域活性化などに効果を期待しているようです。特に「日本遺産」の認定前に、土台となった旧軍港4市協議会で 4 市が申請に至るまでに色々な課題やストーリーのとりまとめや調整が出来た役割は非常に大きいと感じました。

加西市においても、今後の観光戦略や歴史遺産の保存や効果的な活用方法について、現時点今の段階から他市の戦争遺跡や旧軍に関係する街との連携を公的に図っていく必要があり、そこからの繋がり連携によっての観光客増や補助金獲得等にも大きく係わってくると思います。

※全国上映の劇場用長編アニメ『この世界の片隅に』は、戦前・戦中を通じて軍港の街として発展した呉市（日本遺産）が舞台となっています。視察後、担当者から是非とも映画を通じて呉の日本遺産を見て欲しいと要望もありました。

・「シティプロモーションについて」について

今やＹｏｕＴｕｂｅ動画再生回数が70万回を超えている大変ユニークで全国各市から注目をされ、「呉氏」（くれし）マスコットキャラクターと1995年に発売されたTRFの「CRAZY GONNA CRAZY」（クレイジー・ゴナ・クレイジー）楽曲を使った（クレイジーをクレシともじる）プロモーションビデオの制作過程などの呉市におけるシティプロモーションについて調査しました。

これまで呉市には、商工会が制作したキャラクターは存在したようですが、市民などには大変評判が悪い現状と、漢字で書くと「呉（くれ）」と読んでもらえない全国的認知度の低さ問題を解決するために企画課へ上層部からの特命があり、職員２名で大胆な発想と柔軟な考えをもって取り組んだそうです。

先ず、これら大きな２つの課題「呉（くれ）」の知名度を上げるためにはSNSを利用し、首都圏在住の30～50代女性をターゲットとして発信をするのが一番効果的であるとデータ分析で判断をし、4社ほどからの提案を受けた際には、あえて可愛らしい「ゆるキャラ」を採用せず、少し奇抜な「きもキャラ（呉氏）!?」の採用を決めたそうです。また、上部役員もこの決定には反対をせずに了承してもらえたということで、ある意味大きな決断と賭けではなかったのかと考えましたが、そこには話題を呼ぶための根拠や蓄積されたデータなどの裏付けがあり、約３億円の経済効果と認知度アップに確実に貢献しています。

今、市内の地域や学校からは、キャラクターである「呉氏」や新たな子供のキャラクター「呉Jr」の出前出演依頼も多く、高校生などの若者にはPVのダンスの普及や市民の認知も高まり大好評だということです。平成29年度の関連予算も4,600万円と高額費用が計上されており、楽曲使用料にも年間500万円かかる（製作依頼費：電通 3,000 万円）ようで、新聞メディアやマスコミ等の報道での広告宣伝効果が約３億円となっておりますが、加西市でも同じ額の経費は当然計上できない難しいプロモーションであると思いました。しかし、一般会計予算などの財政規模そもそもの桁が違うわけでありますので、加西市においては予算をかけず知恵と工夫で、呉市のように思い切って大胆なプロモーション発信をしてはどうかと思いました。

※TRF（ティーアールエフ）は、1992年9月結成、1993年にメジャーデビュー。ダンスを中心とした日本の５人組音楽グループ。ボーカル＋DJ＋ダンサーからなるユニット構成され、「CRAZY GONNA CRAZY」は、シングル売上1,587,400枚を記録する大ヒット曲。

〔所感〕　松尾幸宏

【島根県邑南町】

・「日本一の子育て村構想」について

平成２７年の合計特殊出生率２．４６という素晴らしい数値の邑南町は、定住対策、人口増対策として「日本一の子育て村」を目指しておられる。

子供医療費の無料化、第２子以降の保育料無料化、保育所の給食無料化、町内２カ所に病児保育室を設け、保育士と看護師が看護対応するとの事。

又、身近で安心な医療体制として公立邑智病院においては産婦人科、小児科機能の充実（専門医が常勤）。２４時間、３６５日救急受付。ドクターヘリによる緊急搬送等がある。

生活環境面では、UIターン者に対して空き屋改修補助事業や安い家賃の公設、民設住宅の提供を行っている。

結果、特定のターゲットにしていないが、シングルマザーの移住が多いとの事。財源に関しては、国の過疎対策事業債を活用して一般財源の支出を振り替え、過疎法終了後の為に基金として約３億円積み立てておられる。

過疎法が平成３２年まで延長されているので当面の財政措置が確保されている。又、唯一の県立高校に対して寮費、バス通学定期の支援を行ったり、現役東大生によるオンライン補習授業も行っている。特筆すべきは県立矢上高校の定数確保活動のため職員２名を常駐させている事である。

さて本題の人口推移であるが、平成２５年から社会動態はプラスに転じているが自然動態を加えるとマイナスなのが現実である。

しかし、移住者が増え、町民が一丸となって、地域で子育てするという意識が醸成されている現実をお聞きし、将来は人口増に転じる可能性が十分にあると確信した。

施策の自治体間競争が激化している現在、補助金対策に於いては自治体間の差は縮まっている。これからは地域の人々の自分たちで地域を守っていかなければならないという意識、移住者への思いやり等のソフト面での定住促進が必要であると感じた。

現在加西市で推進している「ふるさと創造会議」がその役割を担っていただければありがたい。

【広島県呉市】

・「日本遺産認定に向けての取り組み・近代化遺産の保存と活用」について

呉市といえば、誰もが知るあの戦艦大和が建造された町である。日本が明治時代に４カ所に鎮守府を置き軍港を築いたうちの一つである。平成２６年に創設された文化庁所管事業である日本遺産認定に向けて、呉市庁内で地域型（単独自治体）申請に向けて検討中の折に、現在も旧軍港４市協議会の繋がりがある舞鶴市からの提案によりシリアル型（複数自治体）による横須賀市、佐世保市も含めた４市による申請を行い、平成２８年度に認定された。

呉市といえば大和ミュージアムが有名であるが、日本遺産登録により、軍港都市としての建造物や食文化をストーリー型の観光を展開し、より多くの観光客を誘致し、地域を活性化がするのが目的である。又旧軍港４市の連携により効果倍増も狙っている。

加西市にも戦争遺産、鶉野飛行場跡地があるが、使用していた姫路海軍航空隊は呉鎮守府の管轄だったとか。私たちも呉市を応援すると共に日本遺産のストーリーの一部に加えていただければ幸いである。

・「シティプロモーション」について

平成２８年からの取り組みで、２名の職員で取り組んだとの事。それまでのマスコットキャラクターの評判があまり良くなく上に、呉（くれ）と読まれない事も多く、まず漢字と読み方を認知してもらう為に「呉氏」（くれし）というキャラクターとTRFの楽曲を使ったプロモーションビデオを制作した。クレイジーをクレシともじったユニークなビデオであるが、首都圏在の３０～５０代の女性をターゲットとして、ＹｏｕＴｕｂｅ動画再生回数も増え、認知度アップに貢献している。

市内の学校等からの「呉氏」と共演のプロダンサーの出演依頼も多く、市民からも好評だということ。

しかし費用は、大手広告代理店に３,０００万円。楽曲使用料に年間５００万円。２９年度の関連予算は４,６００万円と膨大である。

しかし広告効果は数億円との事。職員の緻密で大胆な発想には驚いたが、一般会計予算が１,０００億円近い自治体だからこそ出来た事業でもあると感じた。

平成 29 年 5 月 17 日

島根県邑智郡邑南町「日本一の子育て村構想について」視察

平成 29 年 5 月 18 日 広島県呉市

「日本遺産認定に向けての取り組み・近代化遺産の保存と活用について、シティプロモーションについて」「日本遺産関連施設：入船山記念館（現地視察）」視察写真